

# えーっ、ほんとに驚きと感動

小学生が町内の史跡めぐり  
学社融合事業の一環で、毎年実施している小学生の町内史跡めぐりが行われた。講師は郷土史研究会員が当たり。スクールバスで町内を巡回した。



九月五日は、古前小学校四年生十六人に担任の先生が付添い、十月十八日は古丹別小学校の四年生三十三人に担任二人が付添った。巡った史跡は、水田発祥の地(香川) 運上屋跡(港地区) 地区)郷土資料館など。説明に真剣な目なぞ、メモを取りながら、つたり資料に目を通を勉強した日であった。事件や米づくりの様子、わし、講師にも次々と、びせ探究心の旺盛な、義な史跡めぐりであった。郷土史研究会員は来年の実施を楽しみにしており、更に、わが郷土の歴史の研鑽を積もうと意欲を燃やしてまいります。



## 風車まつり 参加

第2回北海道風車まつりが8月7日、港公園で開催され、花風車5,000本が潮風を受けてクルクル回った。郷土史研究会もコスモスの花風車を30本作製し訪れた人たちに楽しんでもらった。来年はもっと変わった花風車を作ろうと張り切っております。

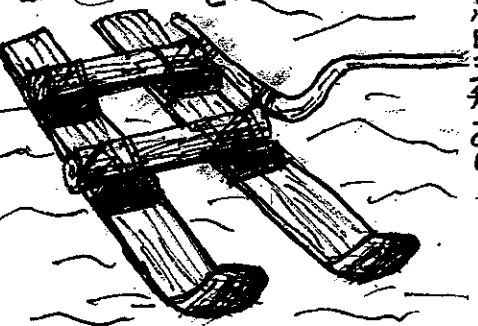
## 昔前のむかしを語りませんか

古前町郷土史研究会では、会員を募集しております。一緒に昔前の昔を語りましょう。入会ご希望の方は次へご連絡を、野澤哲美(64-2638)松岡満雄(65-3177)公民館(65-4076)

## 道内では貴重 有形文化財 修羅

古前町の有形文化財第三号に指定された「修羅」(大型の木製土器)資料館に保存。これはこの修羅は北海道内では古前町にしかないとはいわれている。その部分となる台木が長さ三メートル四五センチあり、これを二本並べると丸太でつなぐ形になっている。台木と台木の幅が二センチ近くある。台木は一本の丸太を削って作ってあるため、板の厚さは約四センチ、幅は約三十センチもある。

この修羅は調査によると明治中期にニシン漁を営んでいた赤坂宇三郎という先人のものらしく、ニシン船を建造するために山から原木を切り出して運ぶ時に使われたものらしい。元北海道開拓記念館の学芸部長として現自本民具学会評議員の関秀志氏による鑑定で「全道的にも非常に貴重で学術的に価値が高い」との判定がなされている。



## 古代の里へどうぞ



～案内板を設置～  
昨年は、資料館を訪れる人が古代の里がわからず館内だけ見て帰る人が多かったが、案内板を玄関前に取り付けたところ、多数の人が見て回り効果があったようです。資料館の裏側にあるためわかりづらいが、一度足を踏み入れて、また違った雰囲気味わえますのでどうぞ。

## 羅事件の復元地は?

古前に来た観光客の方で三溪地区の羅事件復元地へ行く道順がわからなく街の人に聞くことが多々あるようですが、資料館に案内パンフレットがありますので、来シーズンになりましたらおしえてあげてください。

## 北の野鳥展を開催予定

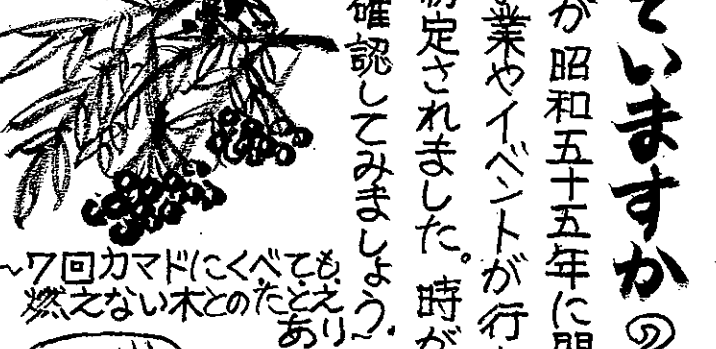
来年の資料館の特別展は、北に棲む野鳥のはくせいを一堂に集め、その珍しい姿や、めったに目にすることのできない貴重な鳥たちを皆さんに観賞していただく特別展の企画を予定しております。ぜひ、どうぞたくさんのご来館をお待ちしております。



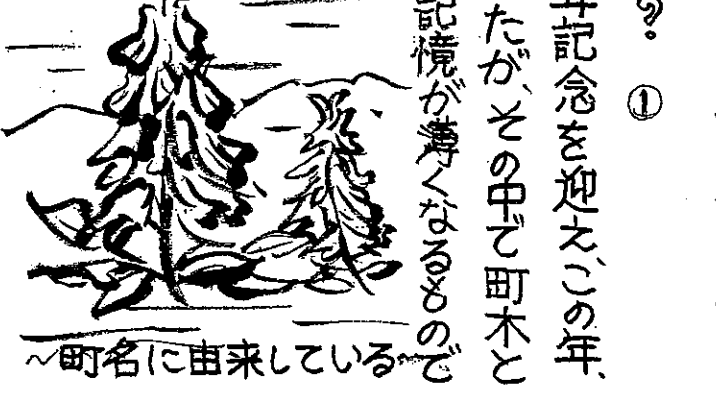
## 大自然に生きた鳥たちよ

- ◎ 5月1日から10月30日(休館)までの入館者は2,950人であつた(昨年は3,158人)夏の2000人が少なかつたのと、9月の台風の影響で団体客のキャンセルが響き、3,000人の影響で団体客のキャンセルが団体客の場が狭くお気の毒でした。
- ◎ 来館者から「資料の質と展示方法が素晴らしい。量もあり見やすいので、とても勉強になった」と、評価が高かつた。
- ◎ 2回から3回来館した人が多く、外国人の方も結構見られた。
- ◎ 地元の方がゆっくり時間をかけて来館してほしい。

## 町木は ナナカマド



## 町花は エゾエンゴサク



古前町が昭和五十五年(1980年)に開基百年記念を迎え、この年数々の事業やイベントが行われましたが、その中で町木と町花も制定されました。時が経つと記憶が薄くなるもので、いま一度確認してみましよう。

町木はナナカマドは、7回カマドにくべても燃えない木のことです。町花はエゾエンゴサクは、町名に由来している。